

第5次原村総合計画後期計画

8/4 第5回ワークショップ結果
『村づくりについて』

『村づくりについて』 グループA

凡例

強み	弱み	取り組み
----	----	------

住民(区)

原山地区のまとまり	区がしっかりとしている意見の集約とか決め事
各区ごとの「でばらい」や「ゆい」のシステムがある ⇒地域内への広がりがあればもっとよい	ボランティア協議会をうまく使っていければ
最近核家族化が進み、子育てに悩む母親が多い。お年寄りの知恵を子育てに活かせる交流の場を作る(おいでなして原宿のようなもの)	子育て世代の支えあいのシステム(仕組み)「ファミリーサポート」がない

公民協働

自然環境と住環境整備に多くの方の協力を得られるように区への加入をすすめる	戦略的な事業が分からない	10年先どうあってほしいかを見据えた事業戦略!
人材バンク制度を作り、住民の力を活用した助け合いを進める	村づくりに参加する人が限られている	一部の人の意見が強く、多くの人の意見が反映されていない
住民等が公共施設を活用し活動(取組)されている	SNS、インターネットを活用した住民の意識調査の仕組みを作り、リアルタイムで広く住民の意見を聞く	多くの方が思っているが発言しない声をさぐる

広域連携

諏訪広域の連携に加えて、定住自立圏での連携も行われている	福祉や医療の専門職が財政的に雇えないが、広域連携もできない	広域行政として広域連合、定住自立圏があり、重点項目について連携がとれている
------------------------------	-------------------------------	---------------------------------------

庁内

防災避難マニュアルの作成 防災勉強会	庁内会議の内容が課長から知らされない	電子化が進められていく
防災についての知識乏しい。いざという時、職員としてどう動けばいいのかわからない	情報共有を徹底するよう庁内会議でも言ってほしい	庁内会議の内容、総務課で全職員に課長によってとらえ方が違うため
意見や考えを気軽に言える環境		庁内会議担当課が全職員へ周知する

情報発信

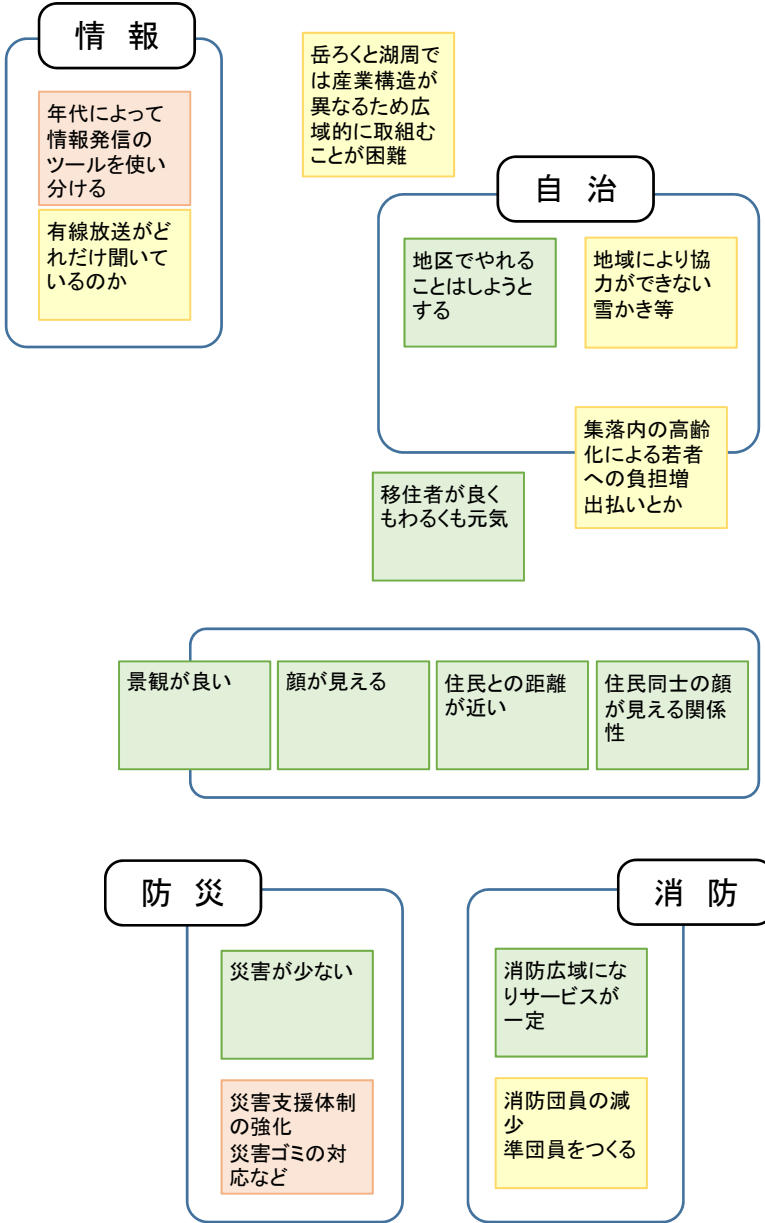
有線放送	有線放送は聞かないという声が多い	有線放送システムを充実する ・防災 ・生活 ・行政
有線放送原稿のテキストがHP上で放送期間に読めるシステム	有線放送設備が無い地域については、ホームページを活用した情報発信、自治会長から住民への周知をしていただく	

施設

施設の老朽化による修繕費の増加	地域の方々との交流が少ない(子供、シニア世代)居場所の確保	教育施設の充実 中プール
企業版ふるさと納税などを活かし、民間の力を信じて事業や施設の運営(PFI)などを進める	公共施設も老朽化している中で、緊急度重要度を調査して改善していく	広域による施設利用と維持管理 長寿命化計画

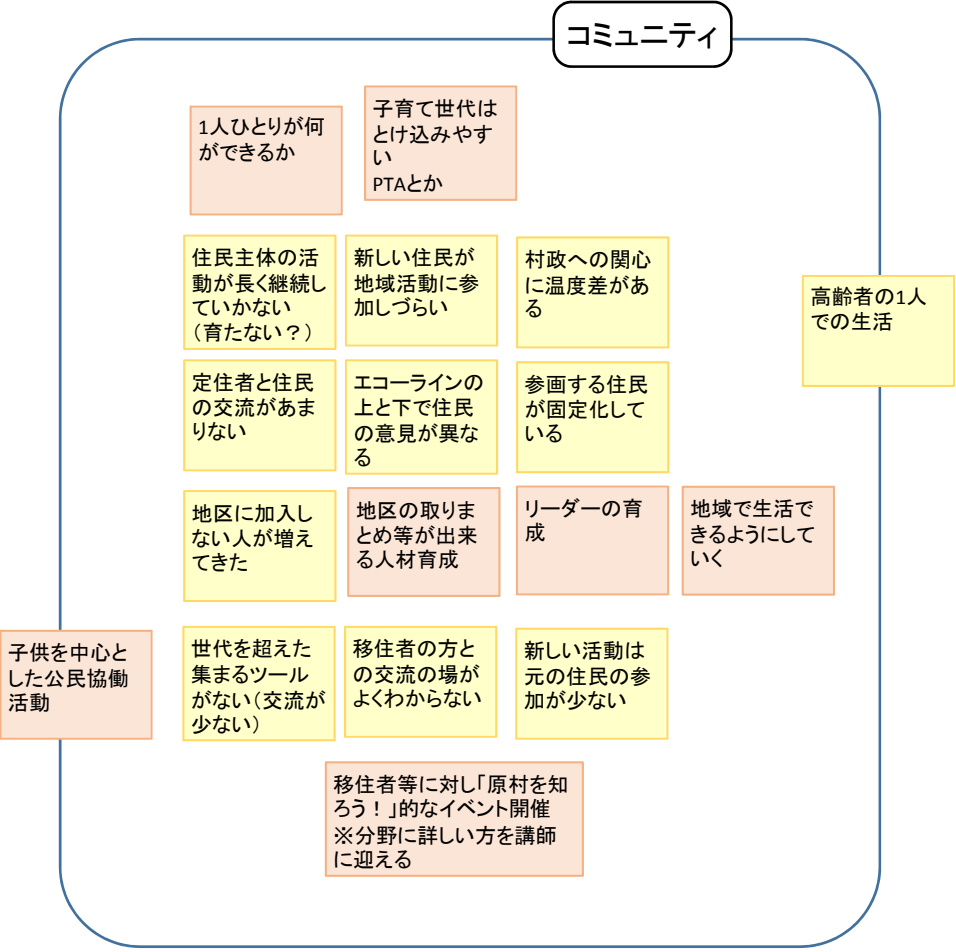
有

『村づくりについて』 グループB



凡例

- 強み (Green box)
- 弱み (Yellow box)
- 取り組み (Orange box)



『村づくりについて』 グループc

凡例

強み

弱み

取り組み

災害が少ない
自然環境が良い

村民の顔が見える

有線放送による
情報発信
分かりやすい

各戸の有線放
送がある

有線放送
(自宅内で聞ける)

毎日有線放送
で広報してい
る

緊急メールの
活用

有線放送
放送内容の伝
達方法
電話⇒スマホ

文字放送終了

HPの見直し

情報発信
(HPが見づら
い)

HPの内容
情報が少ない

優先

ほしい情報に
たどりつけない

茅野・富士見・
北社とは連携
が取りやすい

災害発生時の
行動

役場ロビーが
やや暗い

原村が描かれ
ているマンガ
があるが、そ
れを活用でき
ない

原村を紹介す
る物を置く

行政事務の効
率化がわから
ない

他の課の仕
事を知らない

行政効率化に
ついて考える

庁内他課との
横のつながり
がないように感
じる

必要な事業を
推進して行く

フレックス出勤
の推進

優先

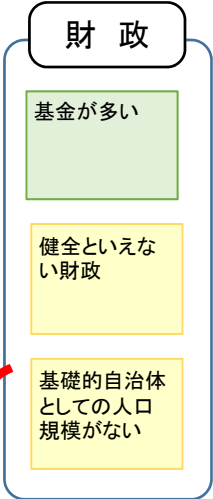
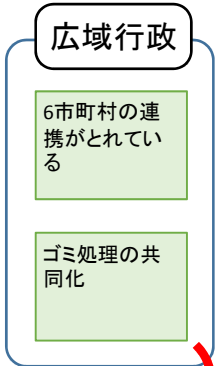
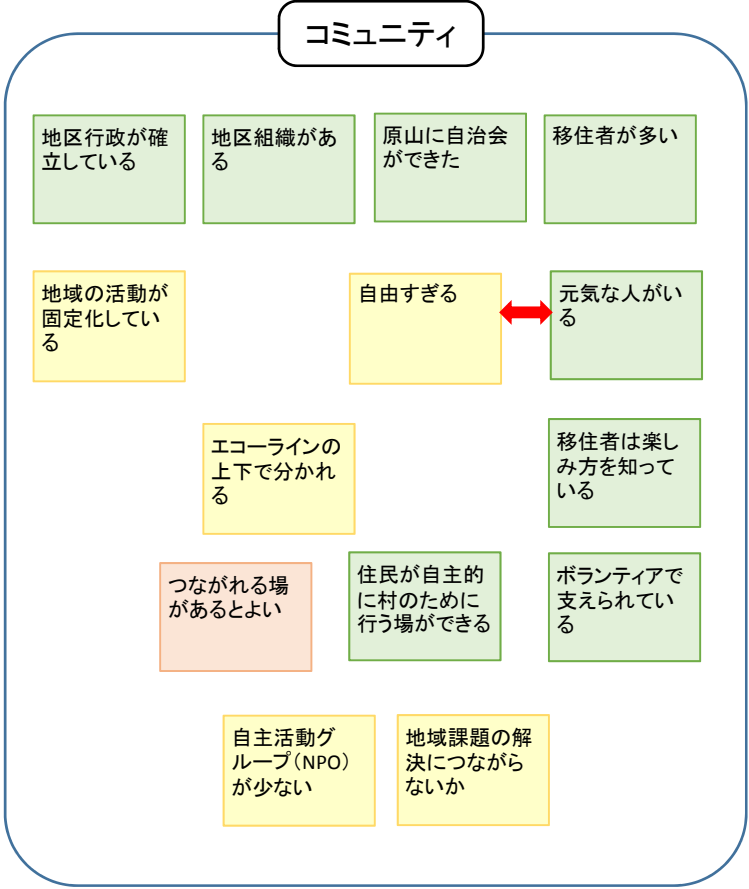
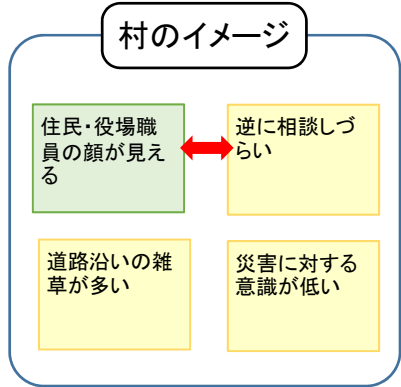
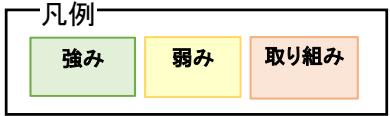
テレワークに
取り組む

行政に参画し
ようとする人が
少ない気がする

住民参加とい
うが、決まった
人しか参加し
ない

公民協働
限られた人の
み

『村づくりについて』 グループD



市町村合併する

